

杜の都の環境をつくる審議会  
第1回「仙台市みどりの基本計画」改定検討部会 議事概要

日 時：令和2年1月23日（木）15時00分～17時15分  
会 場：市役所本庁舎2階 第一委員会室  
出席委員：舟引部会長，池邊委員，小貫委員，近藤委員（計4名）  
欠席委員：渡邊委員（計1名）  
事 務 局：建設局次長，百年の杜推進部長，百年の杜推進課長，同課主幹兼企画調整係長，同課  
緑化推進係長，同課緑地保全係長，公園課公園整備担当課長，河川課長（計8名）  
司 会：百年の杜推進課長

### 1. 開会

○事務局（岡田課長：百年の杜推進課）  
—開会—

### 2. 挨拶

○事務局（岡本次長：建設局）  
—挨拶—

○舟引部会長  
—挨拶—

○事務局（岡田課長）  
—配布資料の確認—

○舟引部会長  
—議事録署名人の指名，傍聴ルールの説明—  
・議事録署名人：舟引部会長，池邊委員  
（了承）

### 3. 議事

#### (1) 検討部会の進め方について

○事務局（菅原技師：百年の杜推進課企画調整係）  
—資料説明（資料1-1，資料1-2）

○小貫委員

- ・資料1-1について，本年度の10月に市民ワークショップの1回目を行っており，本年度の3月14日に2回目のワークショップを行うということであるが，2回目のワークショップでは，どのようなことを市民からお聞きするのか，具体的に教えてほしい。

○事務局（菅原技師）

- ・10月のワークショップは，総合計画の策定に関連した市民まちづくりフォーラムの一環で，杜の都というテーマで市民の方とワークショップを行った。杜の都に対する期待や意見，今後如何にして市民協働を進めていくかを話し合った。

- ・3月のワークショップは、みどりのまちづくりワークショップと題して、NPOの市民活動団体 birth より取り組み事例等についてお話する予定である。市民協働による公園等の活動事例を参考にしながら、本市でどのようなことが一緒に取り組んでいけるかについて話し合い、出された意見を計画の方向性等に反映していきたい。

○小貫委員

- ・来年度の予定は、まだ明確になっていないのか。

○事務局（菅原技師）

- ・今後検討予定である。

○小貫委員

- ・市民意見を把握する機会を増やし計画に反映できるよう、来年度も実施すべきではないか。もう少し形が見えた段階で議論するワークショップの実施も検討してもらいたい。

○事務局（岡田課長）

- ・市民アンケート等で市民の方々の意見を頂戴しているが、直接声をお聞きするワークショップも実施していきたい。

○近藤委員

- ・参考として総合計画のスケジュールが記載されているが、都市計画マスタープラン等の関連計画とも整合を取りながら進めることになるのか。
- ・総合計画と合わせたスケジュールがあると分かりやすい。

○事務局（岡田課長）

- ・この資料の中には総合計画のみ記載しているが、後ほど都市計画マスタープランや環境基本計画等の進捗状況についても説明する。
- ・関連計画は総合計画と同じスケジュールで進んでいるため、総合計画の内容を本計画にも反映させるとともに、関連計画とも連携を取りながら進めていく。

○舟引部会長

- ・同時並行的に総合計画の改定に併せて様々な審議会で計画の見直しが行われている。
- ・関連計画においても市民へのアンケートや市民とのワークショップを実施した場合に必ずみどりの話が出てくるが、局ごとにそれぞれが実施することについて若干疑問がある。事務局にはできるだけ横の連絡を密にしてほしいとお願いしている。
- ・総合計画審議会の委員も務めており、当部会で出てきた提案を早い段階で総合計画に繋ぐ必要がある。一方で他の審議会で出された本計画に関連する課題が、当部会で議論がなされないのは良くない。事務局は関連計画の議論の動向を毎回報告するようにしてほしい。

○小貫委員

- ・資料1-2は、理念のような大きな話から施策等の小さな話に向けて順調に議論が進んでいくように見えるが、ボトムアップの議論も加わることが想定され、関連計画とのやりとりが非常に大事になるのではないか。

○舟引部会長

- ・これまで取り組んできたことを引き続き取り組むことについては積み重ねを行えばよいと考える。一方で、ポスト復興に向けてどういうことに取り組んでいくべきかについては、早めに意見をもらおうと、総合計画や都市計画マスタープラン等に繋げることが可能となる。議論の順序が逆転しても構わないので、そのように進めたい。
- ・進め方についてはよろしいか。

(委員一同了承)

## (2) 関連計画等の改定検討状況について

○事務局（水嶋主幹：百年の杜推進課企画調整係）

—資料説明（資料2-1，資料2-2）

○舟引部会長

- ・説明のように様々な計画の検討が同時並行で動いている。通常は、現計画に対して次にどうしていくかという進め方を行うが、こちらから総合計画にいかにかうまく新しい取り組みとして載せていくかも考慮し、前広に議論を行うためこのような説明をしてもらった。本日は、そのようなことを踏まえ意見をもらいたい。
- ・まず事務局より本日欠席の渡邊委員に事前説明を行った際の報告をもらいたい。

○事務局（水嶋主幹）

- ・渡邊委員に、1月15日に直接伺い、現計画の振り返りを中心に説明したものはあるが、伺った意見を紹介する。
- ・1つ目は、自然災害の頻発という観点から、風水害について触れてほしい。
- ・2つ目は、総合計画の議論の流れについて、都市部に関連した内容に議論が集中しているが、主に局所的豪雨に対する対策等、西部地域のような広範囲における災害対策を重視したほうが良いのではないか。
- ・3つ目は、2つ目に関連して、川の管理も重要になってくる。
- ・4つ目は、グリーンインフラは賛成だが、そのベースになるのは適切な維持管理であると考えている。
- ・5つ目は、森林保全の計画を捉えた場合、防災も大事だが、緑化推進によりまちが魅力的になるようにしていくことも大事である。
- ・6つ目は、東部地域のみどりの再生に関する取り組みは、開通した東部復興道路から周囲の状況を見ると、継続していく必要があると感じる。
- ・7つ目は、市域を西部，中心部，東部等のエリアごとに着目して考えることも大事である。
- ・8つ目は、総合計画でも区別計画を作成することになると思うので、総合計画に倣ってほしいということである。特に実態と乖離した内容にならないよう、緑の基本計画でも十分留意してほしい。場合によっては作成時期が本体の計画に遅れたとしても、取り組んでいくべき、との意見であった。

○舟引部会長

- ・委員より意見を頂戴したい。

○小貫委員

- ・川の管理の話は重要な点だと思う。昔の仙台市の緑の基本計画は、みどりのネットワークについて謳っており、広瀬川や梅田川を緑地と一体となった河川空間として見るという視点は、現在でも使えると思う。
- ・様々な関連計画の検討は、中心部がメインであり、中心部の外側の議論を緑の基本計画の検討で行うことが非常に重要である。欠かさず検討してもらいたい。
- ・区別計画については、区ごとに分けるのがよいのか、あるいは“みどりによる分け方”もあるのではないかということを含め、エリアごとにしっかりと議論を行い、みどりとしてのまとまりをどう作っていくのかを示した方がよいのではないか。
- ・山側の話でいくと、仙台市の林業について現行の緑の基本計画では意外と触れられていないので、林業といった山を使った産業に触れてみてもよいのではないか。

○事務局（岡田課長：百年の杜推進課）

- ・グリーンインフラという議論が盛んに行われている。都心部での施策を中心に議論されているが、グリーンインフラそのものは都心部だけではなく、広く森林等も含めた概念であり、

現行の計画と同様に新しい計画についても仙台市域全体を捉えた観点で議論してもらいたいと考えている。

○舟引部会長

- ・事務局より森林環境税について説明してもらいたい。

○事務局（佐々木部長：百年の杜推進部）

- ・森林環境税は、林業の振興に資する目的で、来年度から森林面積や人口等に応じて配分される。
- ・そのため、人口が集中している大都市に多く配分される仕組みになっている。一方で、林業を産業としている大都市がどのくらいあるのかということがあり、実態と乖離しているという問題がある。
- ・これまで県の環境税等を使って実施していた事業が、国から交付される森林環境税を使って実施できるメリットは大きい。
- ・本市の市議会議員も森林環境税の用途について議論されるなど注目している。
- ・森林環境税は木材の活用には使用できるが、それ以外の街路樹や公園緑地の管理にも森林環境税が使えるよう呼び掛けていきたい。
- ・緑の基本計画は国土交通省の所管事務ということもあり、農林水産省が所管する事業に関して弱い部分があったのは否めない。都市における農地の在り方をどうしていくかも踏まえながら、新しい計画に盛り込んでいかねばならないと考えている。

○舟引部会長

- ・東部地域のみどりの再生ということで沿岸部に大変多くの植樹を実施しており、10年後、15年後が極めて楽しみである。森林環境税は、東部地域のみどりを今後どう使い、どう位置付けていくかにも繋がる話である。
- ・都市農地についても都市農業基本計画において国土交通省と農林水産省が一緒になって様々なことを考えている。様々な分野に広がるような視点で検討してもらいたい。

○近藤委員

- ・現行の緑の基本計画は、策定中に東日本大震災が発生した。震災を相当意識しつつ、限られた時間の中で策定に邁進した。この後に説明がある振り返り等について、検証・評価をしつつ、課題の抽出に結び付けていくのだろうと思う。
- ・先に振り返り等をされてはどうか。

○舟引部会長

- ・では先に振り返りの部分を説明してもらいたい。

**(3) 現「仙台市みどりの基本計画」の振り返り等について**

○事務局（菅原技師：百年の杜推進課企画調整係）

一資料説明（資料3）

○近藤委員

- ・振り返りでは、量と質という見方しかしていなかった。私としては、実際に計画が総合計画や都市計画マスタープラン、あるいは景観等の計画を意識して一体的につくっていくという意識が足らなかつたと感じている。今回は様々な意味で他の計画と連携できるので、位置付けが明確になる。それが前提にあれば、市民を含め、皆が納得できる内容に仕上げられていくのではないかと。
- ・この10年の間にみどりというのはますます多様になっている。世の中においても位置付けが複雑で難しいものになってきていると実感しており、ますます仙台市全体としてみどりを位

置付けていく必要があると思う。

#### ○池邊委員

- ・ 部長にお聞きしたい。グリーンネストはバンクーバー市のものを意識した計画なのか。バンクーバーは、グリーンネストシティを掲げて2020年を目指している。そこにはファンドといった特に若い人が発案した案や、ネイバーフッド基金等といった独自の新しいシステムが入っていたかと思う。
- ・ これは皆さんにお聞きしたい。これからの緑の基本計画に取り組むことにわくわくするかどうか。職員の方がこれから10年、2030年、あるいは都市緑化フェアに向けて、これに取り組むというわくわく感があるのか、お聞きしたい。大阪万博や横浜市での国際園芸博の開催が予定されている中で、仙台の都市緑化フェアに何を打ち出していくのか。「仙台市は都市緑化フェアを開催するだけでなく、新しい緑の基本計画で様々な戦略を生み出した」あるいはそういう動きは、既に始まっているという話ができなければ、誇らしくならない。
- ・ 私は、初めて仙台を訪れた際に、杜の都の歴史を知り、戦災で全て焼失したが、これだけのみどりを作ったから杜の都ということを知った。しかし、仙台の人はそれにあぐらをかいていないだろうか。杜の都という座布団に座って30年行政をやってきたが、そろそろ座布団がほころびている。街路樹に関しても木も老朽化し、ほころびが出てきている。これから先、杜の都として持続力を持つためには、今何をしなければならないのかを、きちんと予算も含めて考えなくてはいけない。
- ・ 緑の基本計画で私たちが何をすべきかという観点では、庁内の他部局の予算からいかにして予算を取ってくるかを議論すべきである。総合計画でもっとSDGsを結び付けられないと、企業はスポンサーになってくれない。これから先、都市緑化フェアに向けてスポンサーを探さなくてはならない。そのときに仙台市として何を国際的に打ち出せるのかにかかっている。「仙台はこんなことを売り物にして取り組んでいく」というものがないと、職員の方も我々もわくわくしない。
- ・ 緑の基本計画を持って企業に営業に行くと考えたときに、今のままだとミッションと戦略がないので、仙台市には投資できないという話になる。投資できるまちかどうかである。投資というのは、“まちに投資する”という意味であり、あるいは“市民に投資する、人材をつくることに投資する”ということである。
- ・ 我々はミッションとして何を持つのかを考えるべきである。東京都ではゼロエミッションも打ち出している。そのようなときに仙台は、環境計画と気候も別々に議論しており、時代から少し遅れている印象がある。
- ・ 緑の基本計画は、これからは市民や企業の人たちに対して、「こんなに面白いことに取り組むから、力を貸してほしい」というような参加意識ももってもらうように作らねばならない。
- ・ 市民参加について、仙台に住んでいても「みどりなんて要らない」と言う人もいる。そういう人にみどりについて考えてもらえるきっかけを作っていけると良い。
- ・ 仙台は東北の一都市だが、大変格の高い都市である。今後10年どう維持するかを考えるスタートとして、ミッションと戦略を入れ、他部局の予算を見つけ出すことが必要だと思う。総合計画にみどりの要素を多く入れ、他分野のメリットと関連させた施策を打ち出せると良い。ちゃんと地に足の着いた大風呂敷を敷いて、皆がこの計画を実施するのは楽しいと感じる何かをつくってほしい。

#### ○舟引部会長

- ・ 総合計画の“グリーンネストシティ”についてお答えする。総合計画審議会にて開始時から私が言ってきたことだが、仙台市が投資対象となるような戦略が必要である。東京に近い地方都市にあり、企業が事務所を構えたいと考える際に、何が比較優位となるかを考えると、「み

どり」なのではないか。杜の都というスローガンを英語で何とするかで議論があった。事務局は防災環境都市を推薦したが、それではいきなり disaster（災害）が来るので、企業が進出しようとは思わないのでは、という話があった。そのときに委員の一人から“グリーンエストシティ”の提案があった。杜の都を意識する言葉としても良く、世界的に通用する。みどりだけでなく環境や福祉、SDGs の分野を全部グリーンという物差しで測れる言葉であり、満場一致で、そのような高いスローガンを掲げていくこととなった。ハードルも期待値も大変高くなっている中で、建設局としては何を打ち出していくのかという流れである。

#### ○小貫委員

- ・あぐらをかいているという話は、10年前もこの計画を作るときにもそのような意見が涌井先生等から出ていたと聞いている。そこからかなり現状の分析等をされて、随分状況が解ったと思う。震災があり、まずはそこからリカバリーする10年だった。しかし、今回作る計画は、50年ぐらい先の仙台がどうなっていたいかなを見据えたうえで、10年後どう良くなっているかという視点で作っていききたい。
- ・そのためには、グリーンに対してネガティブな人たちに「仙台はみどりがあるから良い」という意見をどうつくっていくかである。それは企業にも、来訪者にも同じことがいえるが、まずは実際に今仙台に住んでいる人の意識を変えていくことが一番大事である。地元の仙台を誇れる可能性をどうつくっていくのかということだと思う。
- ・課題を抽出してもらったが、これはあくまでも今までの振り返りを踏まえた話である。そこからもう一步飛躍した、“グリーンエストシティ”のような先を見据えた議論ができると良い。

#### ○舟引部会長

- ・水については、何かあるか。

#### ○小貫委員

- ・まだ具体的にはないが、水の話は山の話にも関わってくる。例えば再生可能エネルギー導入量の増加は太陽光パネルの設置が相次いでいるという話でもある。筑波山麓は沢山の太陽光パネルが設置されたが、みどりの観点からも景観の観点からも非常に問題になっている。
- ・太陽光パネルの設置をみどりとしてどのように捉えていくのかは、経済や農林にも関わる課題である。山が崩れるということは、海、水、川、全てに影響することなので、併せて考えていく必要がある。

#### ○舟引部会長

- ・水について今回考えていかなくはいけないことは、グリーンインフラという言葉を使っていくことだと思う。今回は特に台風19号があった。グリーンインフラという言葉を使う以上、内水対策を含む水処理は絶対に避けて通れない。建設局の中でも様々な議論があると思うが、そこにどう踏み込んでいくかである。
- ・グリーンインフラという言葉は、計画に書く以上は思いきり踏み込んでほしい。

#### ○池邊委員

- ・街路樹マネジメント方針について、管理費の推移は、今後のシミュレーションを入れないといけない。
- ・名古屋市の策定に携わったが、策定後の進捗は芳しくない状況である。
- ・多摩市では全市調査を行った。多摩市には多摩ニュータウン学会があり、多摩市の緑を守る意識の高い人たちがおり、相談された。そこで「この樹木は、今の状態は最高だが、これから10年、20年経ったら、一段上の高所作業車が必要になり道路交通も止めなければいけない。根上がりで車いすの方もベビーカーの方も来なくなる。新しい市民に来てもらうためには、街路樹の更新は必要ではないか。」という話になった。
- ・街路樹の管理は、とにかくお金が掛かり、成長することで将来更に掛かる。そのためには、

計画的な更新をきちんとしていく必要があるということを最初から言わなければならない。

- ・私たちは、どのようにうまく今の景観を残しつつ、計画的な更新をしていくかを考えなければならない。そのための予算が必要であり、伐採や更新やむなしという場合もある。
- ・仙台にとって広瀬川は切り離せない存在である。単純に川に堤防を造るのではなく、通常時から都市部に水を引き込み、防災にも配慮したビオトープの創出など新しいグリーンインフラのシステムを構築して、広瀬川の景観を大事にしたものができれば非常に大きな売り物になる。
- ・いかに広瀬川を生かしつつ、強靱な河川、グリーンインフラの資産としていくかを河川事業として捉えて考えてもらいたい。

#### ○舟引部会長

- ・街路樹マネジメント方針は、素案にしてある。素案にしてある最大の理由は、総合計画等でグリーンインフラがどういう位置付けがなされるかで中身を変更するためである。投資を呼び入れる環境をつくるために、どこに投資するかを考えると、せっかく比較優位にある街路樹に投資しない手はないが、おそらく方針を作っている段階では、そのような考え方が全くなかった。風格があり、見に行きたいまちをつくるためには、街路樹等にお金をかけないと駄目なのは理解しているのに、役所の中にいると分かりづらくなってしまいうようだ。
- ・広瀬川は、台地の中を折り込んで流れており、ほとんどアクセスできないが、青葉山公園追廻地区の整備で初めて市民が都心の中で広瀬川に近寄れることになる。これだけでも今までになかったわくわくする取組みになるのではないか。

#### ○小貫委員

- ・広瀬川に近寄れる場所は、既に何か所かはあるものの、それがうまく生かされていない。

#### ○事務局（岡本次長：建設局）

- ・夢のある計画には資金的な裏付けも必要であり、しっかりと考えていきたい。
- ・広瀬川の利用については、都市緑化フェアの会場を青葉山公園の追廻地区と対面にある西公園も会場とし、間にある広瀬川を使い、今までの都市緑化フェアで行っていない川の活用をフェアというイベントの中で試みたいと考えている。まだ誘致を表明した段階ではあるが、計画を練り上げていきたい。
- ・街路樹の件は、地下鉄東西線の関係から青葉通でケヤキを植え替えている所が何か所かある。その部分の緑が鮮やかで若々しく、このようなやり方もあるということに気付かされた。一方で、これだけ立派なケヤキが植えられている都市はないとも感じている。
- ・お金のかけ方はこれから検討していかなくてはいけないが、維持管理にしっかりお金をかけていくところと、植え替えの計画的な更新にお金をかけていくところの取捨選択を考えていきたい。
- ・現計画は実現可能な部分を見えるようにするためにプロジェクト制にしている。引き続き新しい計画においても実施する事業を見えるような形にしていきたい。

#### ○舟引部会長

- ・他に意見はいかがか。

(委員一同了承)

## その他

#### ○舟引部会長

- ・昨日まで出席していた都市計画学会で出ていた話題について、バルセロナ市役所の職員から

スーパーブロックプロジェクトとして、細街部に全部車を通すのをやめたという話があった。どれだけ実害があったかという点、実害よりはプラスのほうが多いということだった。供給側ではなく、使う側から見て一体となった広がりのある空間のようなものの中で1つの大きな提案ができるということだった。それが世界的な流れである。

- ・世界だけではなく、日本でも神戸や京都の四条通りで車線減少によりオープンスペースを創出したまちづくりが行われている。新聞を見る限り、仙台市でもそのようなことを仙台駅前で行おうとしているが、都心の回遊性がある所にみどりが美しく風格があるものをつくるということが大切である。そのようなものが全てそろって、外から人が来たくなる、住み着きたい、かつ楽しいといった未来を考えるような方向性で検討してもらいたい。

#### ○池邊委員

- ・これは想像だが、仙台は、引きこもりや、うつ病の発症率等が低い都市なのではないだろうか。私が所属する千葉大学園芸学部では、落第して卒業できない学生が学年で1人もいないが、工学部ではそうではない。園芸学部の学生は緑に触れる機会が多いので、緑の力に拠るところが大きいと思う。企業の保険料の支払いの中で、うつ病等を発症した人たちに対して多くのお金を健康保険組合が負担している。仙台に来る企業はうつ病の発症が少なく、仙台市は心の健康に非常に良いということがいえれば、医療健康のところにも緑化に関する新たな予算ができる。それは市民にとっても、あるいは対企業にとっても良い話だろう。
- ・市役所建て替えの話があるようだが、都心部をどうするかという話の中で、緑の色について、斑入りの植物等、淡い緑や、白っぽい緑、柔らかい緑を取り入れてみてはどうか。心の癒やしに対して淡い緑が有効であるという話があり、病院等で導入事例がある。

#### ○舟引部会長

- ・事務局から提案があるとのことなのでお願いします。

#### ○事務局（岡田課長：百年の杜推進課）

- ・近年、国内外でグリーンインフラに関する取り組みが非常に注目されている。総合計画審議会の部会でも、グリーンネストシティという概念が示された。本部会でも、グリーンインフラを専門とする先生を臨時委員として招へいすることを予定しており、現在、中静会長に相談している。事務局としては、東京農業大学の福岡孝則准教授にお願いしたいと考えている。

#### ○舟引部会長

- ・特に異論もないようなので、そういう方向で進めてもらう。
- ・次回はグリーンインフラに関する具体の施策や取り組みのアイデアについて議論し、こちらから総合計画に提案できるような形にしたい。

## 4. 閉会

#### ○事務局（岡田課長：百年の杜推進課）

- ・以上で『杜の都の環境をつくる審議会 第1回「仙台市みどりの基本計画」改定検討部会』を閉会とする。
- ・次回は3月6日金曜日午前10時からを予定している。